

グリーンボンドフレームワーク

2020年8月25日

株式会社カンポ

京都市伏見区羽束師古川町 233 番地

目次

1. はじめに	3
1-1. 発行体概要	3
1-2. 環境への取り組み	3
1-2-1. 環境方針	3
1-2-2. 環境への取り組み体制	4
1-3. 環境目的・目標とグリーンボンド発行の位置付け	4
2. 調達資金の使途	5
2-1. 資金充当予定のグリーンプロジェクト	5
2-2. 環境改善効果	5
2-3. ネガティブインパクト	6
2-4. 資金充当の予定	6
3. プロジェクトの評価および選定のプロセス	7
3-1. 環境面での目標	7
3-2. プロジェクトの評価・選定のプロセス	7
4-1. 調達資金の管理方法	8
4-2. 未充当資金の運用方法	8
4-3. 文書管理の方法	8
5. レポーティング方針	9
5-1. レポート方法	9
5-2. 開示内容	9
5-3. レポーティング体制	9
6. 外部レビュー方針	10
6-1. 発行前レビュー	10
6-2. 発行後レビュー	10

1. はじめに

1-1. 発行体概要

当社は1968年の創業以来、循環型社会の形成のために一貫して廃棄物の再資源化事業に取り組んでまいりました。1995年にはじまるRPF(固形燃料)製造事業は進化を重ね、2011年にはJIS(日本工業規格)工場として認証を受けました。2007年よりホールディングス制に移行し、株式会社カンポホールディングスを持株会社として傘下にある株式会社カンポ、テックス・カンポ株式会社、アシストカンポ株式会社が、それぞれ産業廃棄物処理、一般廃棄物処理・有価物回収など専門分野で個性を活かし、積極的な環境保全事業活動を展開しております。

1-2. 環境への取り組み

カンポグループは、「カンポグループは、行動力と英知を発揮して、地球と共生する環境にやさしい企業を目指します。」という環境理念の下で、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを社内に構築し、PDCAサイクルに基づく環境への取り組みを進めております。

さらに、RPFの製造、太陽光発電や有価物の徹底選別などの事業を通じて、環境への取り組みを積極的に行っております。

1-2-1. 環境方針

カンポグループは、環境ソリューション事業を展開し、廃棄物の収集運搬、処理、再資源化の企業活動および製品が自然環境に与える影響を軽減するため、全社をあげて環境マネジメントを推進します。環境マネジメント推進にあたっては、関連する法規制および当社が認めるその他の要求事項を遵守し、継続的改善と汚染の予防につとめます。

1. 改善の主な項目は次のとおりとします。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 製品である「RPF」の品質管理2. 化石燃料(軽油、ガソリン等)使用量の削減3. 廃棄物の減量、リサイクルの推進4. グリーン調達推進5. 構内緑地の保護 |
|--|

2. 改善活動を確実にするために次のことを実施します。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 目的・目標・プログラムの策定とその推進2. 定期点検、内部監査、マネジメントレビューによる見直し |
|--|

- | |
|-------------------------|
| 3. この方針及び関連する事項の従業員への周知 |
| 4. この方針の一般への公開 |

1-2-2. 環境への取り組み体制

カンポグループは、ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムをグループ内に構築し、全社・各部署に環境推進委員を配置するとともに、定期的な環境教育によって従業員の環境意識を高めております。

環境管理においてはカンポ HD 代表取締役の下に環境管理責任者、環境推進委員会、内部環境監査チーム、環境事務局を設置しています。

1-3. 環境目的・目標とグリーンボンド発行の位置付け

当社では、以下の環境目的・目標を定めています。

部門	環境目的	環境目標(令和3年3月まで)
(株)カンポ処理部	RPF の品質管理	RPF 搬出量 年間 3,200t
	再資源化比率アップ(リサイクル率の向上)	ペットボトル分別量 年間 610t
(株)カンポ滋賀事業所	RPF の燃料化比率アップ(リサイクル率の向上)	RPF 搬出量 年間 5,700t
	排出ガス濃度の抑制	1 時間平均自主管理基準値の厳守
(株)カンポ運搬部	車両用軽油使用量の削減	業務車両の平均燃費 4.77km/L
	省エネ運転の励行	デジタルタコグラフ評価点 98 点
(株)カンポ管理部	グリーン調達の推進	事務用品のグリーン調達率 61%
(株)カンポ営業部	営業車両ガソリン使用量の削減	営業車両の平均燃費 15.0km/L

本社債による調達資金を充当するプロジェクトは、RPF 製造設備の新設であり、環境目標「RPF 搬出量」の達成に資するものであると位置づけております。また、RPF 生産を効率化することで電力消費量の抑制、ひいては CO2 排出量の抑制に資するものです。

2. 調達資金の使途

2-1. 資金充当予定のグリーンプロジェクト

本社債による調達資金は、以下のプロジェクトに充当される予定です。

プロジェクト	名称	事業区分
1	「エナジーカンポ 2」への高効率 RPF 製造設備の新設	・省エネルギーに関する事業 ・汚染の防止と管理に関する事業

プロジェクトの概要は、以下の通りです。

【プロジェクト 1】「エナジーカンポ 2」への高効率 RPF 製造設備の新設

事業主体	株式会社カンポ
事業実施場所	京都市伏見区羽束師古川町 403 番の 1
事業進捗状況	2020 年 9 月完工予定
事業概要	高効率設備の導入により RPF 製造に要する電力量を減少させることで、省エネルギーおよび CO2 排出量の削減を企図する。また、RPF 製造量を増加することで、廃プラスチック等の適正処理を推進し、汚染の防止と管理に資することを企図する。

2-2. 環境改善効果

プロジェクトによる環境改善効果は、以下の通りと想定しています。

プロジェクト	環境改善効果
1	設備効率化による CO2 排出量の削減 効率性の高い RPF 製造設備導入によって、製造に必要な単位当たり電力使用量を、従前の製造設備に比して減少させる。

なお、レポートिंगにおいては、CO2 排出削減量を開示することとします。環境改善効果の算定方法は、以下の通りです。

プロジェクト 1. 設備効率化による CO2 排出量削減	
算定方法	プロジェクト実施前の設備(更新前設備)によるエネルギー使用量と、プロジェクト実施後設備によるエネルギー使用量を比較して算出します。
算定式	<p>[CO2 排出量の削減量(tCO2/年)]=[更新前設備による CO2 排出量(tCO2/年)]-[新設備による CO2 排出量(tCO2/年)]</p> <p>[更新前設備による CO2 排出量(tCO2/年)]=(更新前設備 CO2 原単位(t-CO2/t) × 更新後年間 RPF 生産量(t))</p> <p>※更新前設備 CO2 原単位(t-CO2/t)=(更新前年間使用電力量(kWh) × 電力排出係数(kg-CO2/kWh) ÷ 1,000) ÷ 更新前年間 RPF 生産量(t)</p> <p>[新設備による CO2 排出量(tCO2/年)]=更新後年間使用電力量(kWh) × 電力排出係数(kg-CO2/kWh) ÷ 1,000</p>

2-3. ネガティブインパクト

プロジェクトがもたらすと想定される環境リスクおよび主な環境保全措置は、以下の通りです。環境保全措置は関連するすべての法規制を順守するために実施されます。

また、環境法令等や自治体が定める条例に則り、環境影響評価を実施しています。

想定される環境リスク	主な環境保全措置
騒音の発生	条例に従い騒音レベルを測定し、規制基準を下回っていることを確認しています。
振動の発生	条例に従い振動レベルを測定し、規制基準を下回っていることを確認しています。
大気汚染	廃棄物の種類や形状に合わせた車両により、廃棄物の飛散流出、臭気の漏洩の無いよう努めています。

2-4. 資金充当の予定

プロジェクトのプロジェクト総額、本社債による調達資金からの充当金額および予定時期は、以下の通りです。

プロジェクト総額	本社債による調達資金からの充当金額および予定時期	
540 百万円	新規 ※リファイナンスは該当なし	100 百万円(2020 年度)

3. プロジェクトの評価および選定のプロセス

3-1. 環境面での目標

本社債の調達資金を充当するプロジェクトにより達成される「環境面での目標」(グリーンボンドを通じて実現しようとする環境上のメリット)と関連する環境改善効果は、以下の通りとなります。

環境面での目標	環境改善効果	該当プロジェクト
気候変動の防止	CO2 排出量の削減	1

3-2. プロジェクトの評価・選定のプロセス

当社は、新規に採用する技術・設備を選定する際は、(株)カンポの代表取締役社長、設備管理部、処理事業部及び(株)カンポホールディングスの管理部総務課、財務会計課が協議し、環境面、経済面、財務面から類似技術との比較を通じて重要な要素を特定し、その都度、技術・設備の選定基準を検討・決定しています。本社債の調達資金を充当するプロジェクトに採用されている設備についても、これらのプロセスを経て決定された選定基準に沿って選定しており、とりわけ環境面、経済面での評価には重点を置いております。(株)カンポの代表取締役社長、設備管理部、処理事業部及び(株)カンポホールディングスの管理部総務課、財務会計課によって、以下のような選定基準に基づいてプロジェクトの一次評価・選定を行いました。

資金使途となる技術・設備	技術・設備の選定基準
効率性の高い RPF 製造設備導入	既存の RPF 製造設備と比較して、製造に必要な単位当たり電力使用量を減少させること。また、単位時間当たりの製造能力を高めること。

また、本社債の調達資金を充当するグリーンプロジェクトの選定にあたっては、処理事業部が起案し、1-2-1「環境方針」に記載された環境方針への適合性、1-3「環境目的・目標とグリーンボンド発行の意義」に記載された環境目的・目標への貢献性、3-1「環境面の目標」に記載された環境改善効果もたらされる蓋然性を考慮し、総合的評価を行いました。その結果、最終選定されたプロジェクトは、社長決裁により最終決定されました。

4. 調達資金の管理方針

4-1. 調達資金の管理方法

本社債による調達資金の追跡管理は(株)カンポホールディングス管理部が行います。本社債による調達資金総額、プロジェクトへの充当済資金、未充当資金は、会計上区別された補助勘定を設けて管理します。全ての調達資金が充当されるまでの間は、未充当額と充当額の合計が調達資金全額と整合するように管理し、全ての調達資金が充当された後は、調達資金全額がプロジェクトへの累計充当額を下回らないように管理することとし、これらの確認は年次で実施します。本社債を発行するのは(株)カンポであり、本社債の償還についても、当社より実施します。

4-2. 未充当資金の運用方法

未充当金額については、現金または現金同等物、短期金融資産等で運用します。

4-3. 文書管理の方法

調達資金に関連する証憑となる文書等については、当社規定に基づき適切に管理します。

5. レポーティング方針

5-1. レポート方法

当社は、本社債による調達資金のプロジェクトに対する充当状況や環境改善効果等についての最新の情報を、以下のスケジュールで当社ウェブサイトにて一般に開示します。また、本社債による全ての調達資金がプロジェクトに充当された後においても、大きな状況の変化が生じた場合は、適宜開示します。

①発行時レポート:

本社債が発行された直後に実施します。

②年度レポート:

本社債の償還までの間、1年に1度実施します。

5-2. 開示内容

レポートには以下の内容を含む予定です。環境改善効果の算定に当たっては、本フレームワークで定義した算定方法に則り、適切に実施します。

開示内容

- ・調達資金を充当したプロジェクトのリスト
- ・プロジェクトの概要(進捗状況を含む)
- ・プロジェクトに充当した資金の額
- ・未充当資金の額、資金充当の予定、未充当資金の運用方法
- ・グリーンプロジェクトによる環境改善効果(CO2 排出削減量)

5-3. レポーティング体制

発行時レポートおよび年度レポートは、(株)カンポホールディングス管理部が主管として作成します。また調達資金に関する情報収集・記載事項の確認も、(株)カンポホールディングス管理部が実施します。環境改善効果に関する情報収集は、当社の設備管理部や処理事業部が担当し、(株)カンポホールディングス管理部が記載事項の確認を実施します。また、環境改善効果の算定等に当たっては、独立した第三者機関より助言を受ける予定です。

6. 外部レビュー方針

6-1. 発行前レビュー

当社は、本社債を発行する前に、本グリーンボンドフレームワークが「グリーンボンド原則 2018」および環境省「グリーンボンドガイドライン 2017 年版」に定められた要件と適合性を有しているかという観点から、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センターより、セカンド・パーティーオピニオンおよび R&I グリーンボンドアセスメントを取得する予定です。

6-2. 発行後レビュー

当社は、本社債発行日から 1 年経過後に、当社の資金管理方法やプロジェクトによる環境改善効果の算定等について、本グリーンボンドフレームワークに則り適切に実施されているかという観点から、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センターより、レビューを受ける予定です。